

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第 73 号(2020 年 6 月 8 日)

LET 九州・沖縄支部事務局発行

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1

熊本学園大学 研究棟 302 号

林幸代研究室 TEL: 096-366-3230(代表)

E-mail: secretariat@j-LET-ko.org

編集: 大下晴美・竹野茂・事務局

June 2020 LET Kyushu-Okinawa Chapter No. 73

Table of Contents

・第 60 回全国大会の延期について(植田正暢)	1 頁
・2019 年度学術講演会報告(田上優子)	2 頁
・新型コロナウイルス感染症対策に伴う遠隔授業の状況(大下晴美)	3 頁
・LET2019 年度理事会報告(植田正暢)	7 頁
・事務局からのお知らせ	10 頁
・編集後記	10 頁

第 60 回全国大会の延期について

LET 第 60 回全国研究大会実行委員長
植田 正暢 (北九州市立大学)

4 月 15 日に本部から一斉配信されたメールですすでにご存じのことかと思いますが、9 月 19 日から 21 日に予定されていた第 60 回全国大会の開催を延期することになりました。延期を決定した頃は、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、4 月 7 日には政府から緊急事態宣言が出され、先行きが見通せない状況でした。秋には収束しているかもしれないという希望的観測もありましたが、その一方で感染拡大を抑え込むのに必要とされるワクチンの開発が 1 年程度、ワクチンの接種が行き渡るにはさらなる時

間がかかるかもしれないという専門家の意見もありました。理事会にてさまざまな観点から熟考した結果、苦渋の決断となりましたが、延期するという判断に至りました。講演やシンポジウム、ワークショップの講師をお引き受けくださった講師の先生方や研究発表にお申し込みくださった会員のみなさまには大会を延期する事態になり、ご迷惑をおかけしました。この場を借りて深くお詫び申し上げます。

全国大会は中止ではなく、延期という決定をしました。2021 年度の大会も引き続き、九州・

沖縄支部が担当します。開催日等は未定ですが、2021 年度に開催できるように本部と連携をとりながら支部内理事会にて検討し始めました。新しい生活様式に従うと、どのような形で開催するのが望ましいのか手探りの状況ですが、会員のみなさまが研究成果や教育活動の取り組みを他の方と共有でき、次の活動につなげられる場を設定できるように務める所存です。開催日や開催方法が決定次第、随時お知らせしたいと思いますので、しばらくお待ちください。最後になりましたが、この原稿を認めている 5

月 30 日現在、福岡県では休業要請が解除される方向で動き始めている一方で、北九州市では市中感染者が増加している状況です。今は落ち着いている地域でも突然、再び感染者が増える可能性があり、依然として感染予防のための行動が求められています。新しい日常における教育や研究はこれまでの枠組みにとられない発想が求められ、いろいろご苦労なさっているのではないかと思います。早く心安まる日が訪れることを願う次第です。

2019 年度学術講演会報告

LET 九州・沖縄支部運営委員
田上 優子（福岡女子大学）

2019 年度の LET 九州・沖縄支部の学術講演会は 11 月 9 日（土）に西南学院大学コミュニティーセンターホールにて、東京から青谷優子先生を講師としてお迎えし開催されました。演題は「Reading Aloud から Reading Alive へ一言葉に息を吹き込もうー」です。

青谷先生は、NHK World ニュースでアンカーを 20 年務められた後、朗読家・バイリンガル



アナウンサー・英語コミュニケーション講師などとして日本全国で講座や講演活動をおこなっておられます。また、ご自身の幼少期からの在英経験を生かして、日本文化を英語で紹介する活

動をライフワークとされています。二児の母としても毎日のお弁当作りに精を出されたり、このコロナ自粛の間にはベランダ菜園で豆苗を育てられたりという、素敵な日常もブログを通して発信されています。（青谷優子オフィシャルサイト：<https://yukoatani.jp/>）

さて、講演会では小柄な青谷先生がホールの舞台に立つと、落ち着いた幾分低音のお声がホールに響きました。さすが元アナウンサー。先生の日本語のカツゼツは明瞭で、メリハリの利いたお話ぶりに私たちは「ことだま」の世界へぐいぐいと引き込まれていきます。言葉を生業とする私たちは、キャンパスで、授業で、学生たちにこんなにも力強く言葉を発しているだろうかとしばし考えさせられました。

圧巻は講演後半の『むじな (by 小泉八雲)』の日本語・英語による表現披露でした。青いシルクのストール1枚を小道具にして、と

つとつと語り始めます。緩急をつけて、絶妙な間をおきながらのお話をフロアの私たちは息をのんで耳を傾けるうちに、風にそよぐ柳のヒューヒューなく音、ざっざっと地を踏むわらじのこすれる音などが聞こえてきます。いつの間か想像力を膨らませ、一心に聞くという体験をしたように思います。それはまるで上質な落語を聞いたような、話者と聴衆が一体となった空気に包まれた時間でした。

今回の講演を拝聴し、「英語教育にも朗読を！」という青谷先生の訴えを強く支持したいと思いました。これまでも教室で指導されてきた英語の流暢さ・正確さは重要ですが、もっと人間くさい「聞き手の心に響く声の力」を学生・

生徒にも朗読をすることでつけさせてあげることが可能ではないかと感じました。

2020年の春、青谷先生は早稲田大学大学院の修士課程に進学されました。LETの大会でお会いする機会もあることでしょう。先生との再会・今後のご研究発表の日を楽しみに待ちたいと思います。



新型コロナウイルス感染症対策に伴う遠隔授業の状況

—アンケート結果報告—

LET九州・沖縄支部運営委員
大下 晴美 (大分大学)

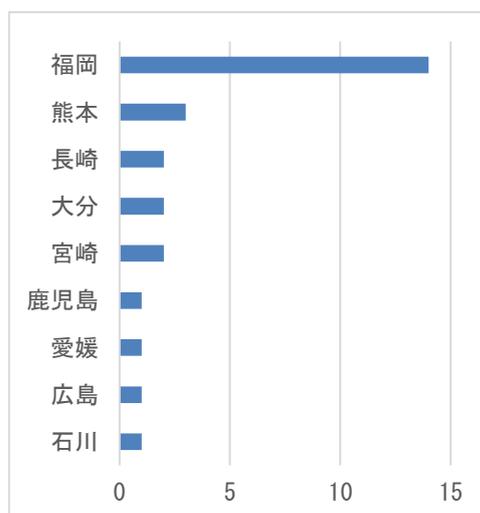
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの学校で遠隔授業が実施されています。そこで、会員の先生方の勤務校の遠隔授業の状況、課題等につきまして、支部だよりの特別企画といたしまして、緊急アンケートを実施しました。お忙しい中ご協力いただいた先生方には、あらためて感謝申し上げます。急なアンケート依頼でしたので、回答数は少ないですが、参考となる結果が出ましたのでご報告いたします。

●アンケート実施期間:

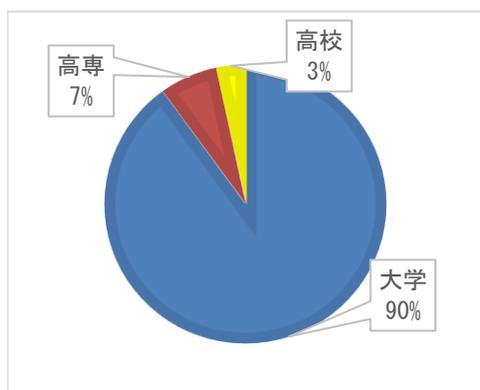
2020年5月15日～5月31日

●回答数:27件

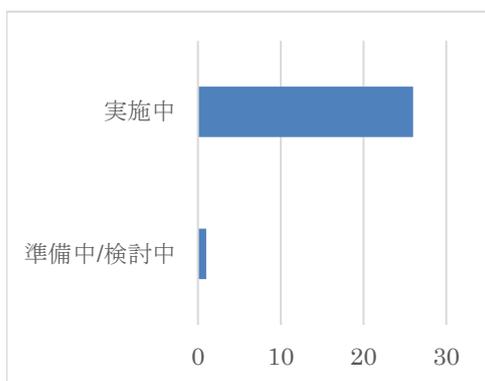
【学校が所在する都道府県(回答数:27)】



【学校種別(複数回答)】

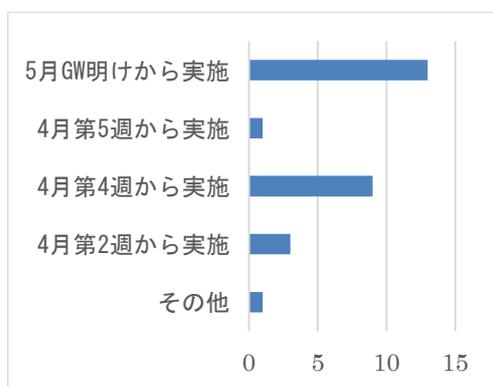


【遠隔授業の実施状況(回答数:27)】



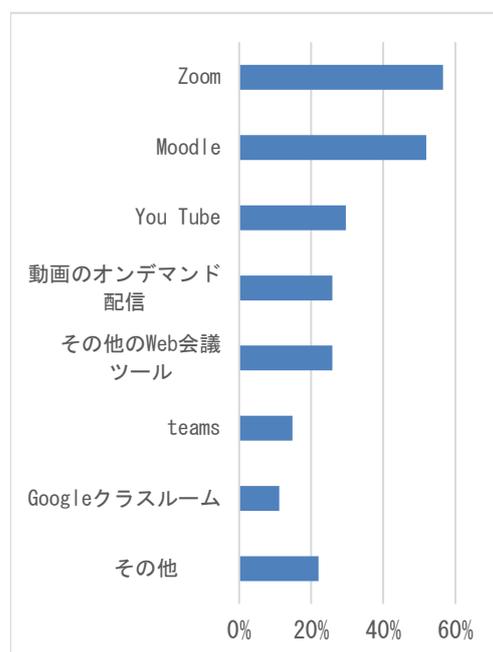
実施中が9割を超えました。準備・検討中が1件で、実施しないという回答は0でした。各校が遠隔授業をすでに実施していることがわかりました。

【遠隔授業の実施(予定)時期(回答数:27)】



5月のゴールデンウィーク明けから実施が最も多く48%、4月第4週から実施が33%で、ゴールデンウィーク前後から遠隔授業が開始されたことがわかりました。また、その他として、4月は遠隔授業を行い、5月より対面授業を再開したという学校もありました。

【遠隔授業の方法(複数回答)】



Zoom を活用している学校が56.6%、続いてMoodleが51.9%、YouTubeが約3割という結果になりました。ただし、ZoomとMoodleなどのように、複数を選択された学校が多く、いくつかの方法を組み合わせながら実施しています。また、YouTubeもしくは動画のオンデマンド配信を選択した学校は約5割を超え、動画を活用している学校も多いようです。また、ZoomやteamsのようなWeb会議ツールだけでなく、MoodleやGoogleクラスルームのように課題を管理するツールも活用されています。その他として、学内ポータルサイト・授業支援ツール、大学が提供するクラウドストレージ、

skype、Web Exercise や ALC NetAcademy などの e-learning system、manaba、Google Forms、mylog などの LMS、Blackboard、WebClass、LINE および LINE ビデオ、Flipgrid などを使用されている学校もありました。様々な方法を複数利用しながら工夫して授業に取り組まれていることがわかりました。

【遠隔授業の内容(自由記述)】

遠隔授業の内容に関しては、Zoom や teams のような Web 会議ツールを用いて行う内容と、Moodle や Google クラスルームのように課題等を管理するツールを用いて行う内容とに大別できるようです。

※Zoom・teams・その他の Web 会議ツール・

Line ビデオを用いた授業内容

- ・リアルタイム授業(少人数クラスが中心)
- ・授業の録画動画を用いたオンデマンド授業
- ・ペア・グループワーク
- ・ディスカッション(教員ー学生、学生ー学生、教員ー教員)
- ・プレゼンテーション、発表
- ・会話練習などのコミュニケーション活動
- ・音声指導
- ・指示・説明と質疑応答
- ・ホームルーム、二者面談

※Moodle・Google クラスルーム・学内ポータル

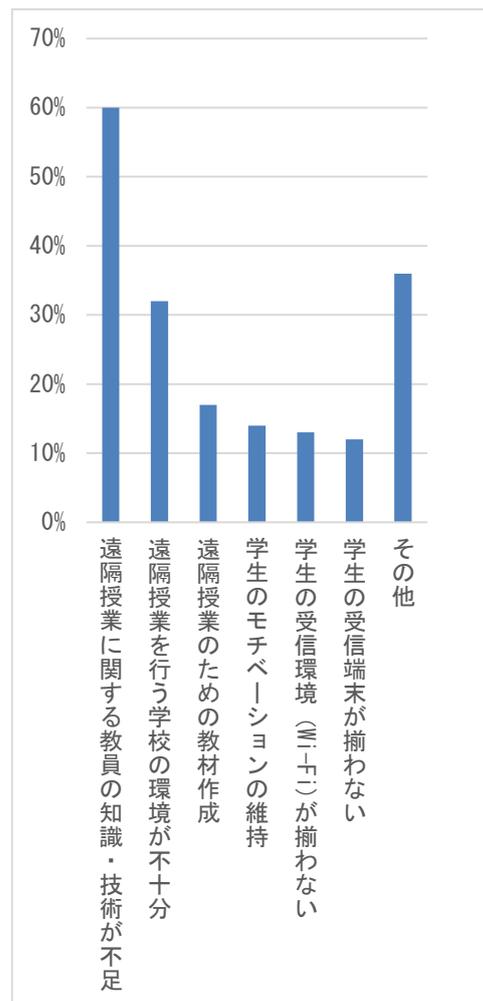
サイト・授業支援システム・その他の方法 (manaba・WebClass・mylog・Google Forms 等)を用いた授業内容

- ・授業コンテンツ(動画・教師による録画動画・PDF などの資料・音声付きパワーポイントのスライド)配信
- ・課題提示・指示と課題の提出・回収

- ・テスト
- ・課題・質問等に関するフィードバック
- ・出席管理

その他として、YouTube に教職の模擬授業実践をアップさせ相互評価を行う、Web-Exercise のフォーラムを使って学生同士の課題の writing の共有を行うなどの実践例もありました。また、会議ツールと管理ツールの併用方法として、Moodle で VOD 授業、あるいは、解説 Video 視聴し、Zoom のリアルタイム授業に望むという反転授業のような形態で授業を実施しているとの具体例もありました。

【遠隔授業の課題(複数回答)】



新型コロナウイルスの感染拡大により、急きょ遠隔授業の実施が決定したためか、最大の課題は「遠隔授業に関する教員の知識・技術不足」(60%)だということがわかりました。十分に研修や事前準備を行う前に、遠隔授業が始まったという現状が大きく影響しているようです。また、学校、および学生の遠隔授業実施のための環境が整っていないことも6割となっており、こちらも大きな問題となっているようです。その他にも、学生の通信量制限のためビデオや双方向の音声を使用できない、学生の情報機器(PCやタブレットなど)の入力の不慣れ、学生の身体的負担(目が疲れる)という学生側の課題がありました。また、教育の質の担保、教員のモチベーションの維持も教員側の課題に関する指摘もありました。さらに、学校全体の課題として、機器やソフト等のトラブルに対するサポート窓口の不足、学校の方針で対面授業を部分的に取り入れる予定があり、遠隔と対面が混在するという問題もあげられました。

【遠隔授業の利点・グッドプラクティス等(自由記述)】

課題も多い中、試行錯誤をしながら遠隔授業を実践されている先生方から貴重な実践例・ご意見をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

※遠隔授業の良い点

- ・遠隔授業の方が学生は集中して動画教材を視聴しているようだ。
- ・授業資料等の印刷と配付の手間が省ける。
- ・出席状況の確認も兼ね、毎回課題を課しているが、学生からは高評価であり、学習の質は高まっていると思う。
- ・対面授業から遠隔授業への移行に伴う評価

方法や基準についてルーブリック評価を用いて分かりやすく解説できた。

- ・来年以降も(一部でも)遠隔授業を行うのであれば、今年度のコンテンツがあるため、教材作成の負担が軽減する。
- ・講義内容を動画で録画し、学生が自由にアクセスできるようにしておく、学生が欠席しても対応が可能。やる気のある学生は、何度も復習しているようである。
- ・学生の英語発話に対する抵抗感がやや少なくなっているような印象がある。

※遠隔授業で上手く運用できた方法・内容等

- ・課題提出は、手書きのものを写真で撮らせて Moodle 上に投稿させている。
- ・音声または動画を学生に録音・録画させて投稿させている。
- ・栄養科学科の学生向けに料理動画や TED ED を利用している。
- ・適度な人数であれば、スライドを使いながら、チャットで書き込みをさせたり、Forms での解答・回答を挟むと、インタラクティブな授業ができる。
- ・音声ファイルをパソコンやスマートフォンで作成し Google Classroom で提出させているが、意外とトラブルなくできている。
- ・Public Speaking の授業で個別の発表をしてもらう。教室で行う時よりも画面に向かってアイコンタクトしながら、自然なスピーチ・パフォーマンスができている。

※遠隔授業におけるツールの使い方

- ・会議ツールの「注釈共有」機能で、学生も画面に書き込めるため、退屈せずに授業を受けられるようになった。
- ・Zoom のブレイクアウトを使用したグループデ

イスカッションでは学生同士でコミュニケーションできるため、学生が喜んで参加していた。

- Zoom のチャット機能を利用すると質問が出やすい。
- Zoom のチャット機能を利用するとフィードバックを得やすい。
- PDF ファイルを必要ページ数準備して、Zoom のレコーディング機能と教材提示機能を利用して、VOD ファイルを簡単に作成することができる。
- Web-Exercise のフォーラムに My Opinion を投稿させ、それを教員画面で共有した。友人の学びが共有できてよかったとの良い反響を得た。
- 途中で学生が退出していないかをチェックするために、授業の途中かまたは終わりに「投票」機能を使って全員に回答してもらった。

票」機能を使って全員に回答してもらった。

確かに、遠隔授業にはまだまだ多くの課題がありますが、活用の仕方によっては、新しい可能性もあるように感じます。今回のアンケート結果が、少しでもお役に立てば幸いです。また、今後も継続的に調査を行い、様々な課題や解決法について、情報共有できればと考えております。

最後に、遠隔授業の導入により、『対面授業の大切さ、楽しさを改めて実感した』という意見が多くありました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、通常の+新たな生活様式・スクールライフが再開されることを切に願っております。

LET2019 年度理事会報告

LET 九州・沖縄支部副支部長
植田 正暢 (北九州市立大学)

2019 年 8 月 6 日に早稲田大学にて理事会が開催されました。本来でしたら前号にて理事会報告をすべきだったのですが、本部より議事録が配信されるのが遅れ、その議事録はまだ承認されていない現状です。ここでご報告する内容は 2 月 16 日に名古屋学院大学にて開催された会長副会長会議の場で提示された議事録案に基づくものであることをご了承ください。

1. 会長選挙について

柳善和会長の任期満了に伴い、会長選挙が実施された。投票の前に理事会内規の変

更について審議し、下記のように、第 11 条の 7 が下線で示しているように修正された。

【第 11 条の 7】

投票において、過半数を得るものがない場合は、最下位のもの 1 名を除き、決定するまで投票を繰り返し行う。

第 1 回の投票結果は次のとおりであった。(括弧内の数字が獲得票を示す。敬称略。)

第 1 回投票結果:

森田彰 (8)、菅井康祐 (8)、見上晃 (6)
獲得票が同じとなった菅井康祐氏と森田彰氏の間で第 2 回の投票が実施され、投票の結果、森田彰氏が次期会長に選出された。

第2回投票結果:

森田彰 (15)、菅井康祐 (7)

2. 審議事項

(1) 関東支部提案事項について

- ・ 全国大会の参加費徴収について
- ・ 2020年より3000円徴収するという関東支部からの提案があり、同様に九州・沖縄支部でも、本部からの大会運営費の支給がなくなることから、同種の提案がなされた。関東支部からは、「会費値上げ」か「大会費用徴収」であれば後者のほうが妥当だと会長副会長会議で話し合われたとの説明があった。
- ・ 大会参加費に関しては、徴収は決定したが額面に関しては次回の会長副会長会議で審議・決定ということになっている。この件について会長から、支部ごとの財政状況等を考慮し、全国大会についてその都度参加費を確定し、いずれは一定の額に収束させるという説明があった。
- ・ 年会費の値上げについて
- ・ 関東支部で年間40～80万の赤字が出ていることが説明され、個人会費を1000円の値上げ、賛助会員費を2000円の値上げ(学生会員は据え置き)の提案があった。一方で本部からは賛助会員の値上げに関しては据え置きの希望があった。
- ・ 個人会費の値上げは会員数の減少につながるものが危惧されるため、全国一斉の値上げではなく支部特別会費としての徴収にすべきではないかという提案が主に関西支部からなされた。しかし、一方で支部特別会費としての徴収を行う場合、居住地と所属先が一致する必要がないので、関東にいながら他支部に所属するという

人が増えるという懸念が関東支部から出された。

- ・ 本部からは、本部財政がひっ迫している今、本部からの援助が困難であるため、会費の値上げを望んでいるという説明があった(2019年度予算には計上されていないが、今後の財政次第では2020年度の予算に援助金が計上される可能性もある)。
- ・ この会議においては結論を出さず、継続審議として、各支部に持ち帰って1000円値上げに関する議論を行い、会長副会長会議で再度議論することとした。

(2) 本部事業報告・決算報告

- ・ 会計事務所への委託について業務委託が必要なのかという議論があり、今後は業務委託を中止することになった。
- ・ 各年度における機関誌の諸費用に関する金額の差異の原因について質問があった。
- ・ 現在の儉約策が功を奏して本部が余裕のある運営を(会費の値上げなしで)できるようになるのかという質問があった。この件に関して、今は事務局長個人の自助努力でなんとかなっているのが通常の運営に戻るだけで財政はやはり苦しくなるという回答が本部事務局長よりなされた。

(3) FLEAT 事務局からの報告

FLEAT 事務局から以下のことが報告された。

- ・ IALLT と LET の役員で合同ミーティング(交流会)を開催する。
- ・ Half day bus tour について、まだ余裕があるので是非参加して欲しい。
- ・ 事前登録者数 330 人強であり、最終的に目標は 400 人と考えている。

(4) 各種委員会からの報告

学会賞選考委員会

- ・ 学会賞に該当する者はいないことが報告

された。(なお、論文賞については匿名性を重視し、理事会では詳細を公開されなかった。)

- ・その他の賞に対して選考委員の推薦が可能かということについては、本部で検討することとなった。

機関誌編集委員会

- ・研究倫理規定変更に伴い編集規定を変更することが認められ、今後、編集委員会にて原案を作成することが決定した。
- ・オンライン化にあたって業者との連絡作業を本部から編集委員に戻してもらった提案があった。また、J-stage の搭載作業に関して業者委託を行うという提案がなされ、承認された。

メルマガ委員

- ・各種事業報告がなされた。
- ・委員名が「メルマガ編集委員」となっているが、現状に即していないので「LET blog 編集委員」に変更したい、業務内容には変更はないとの意見・説明があり、承認された。

(5) 日本 e-learning 学会後援のお願い

後援依頼が承認された。

(6) 関連学会の連携について

例年通り「教育関連学会連絡協議会」および「言語系学会連合」の関連学会連合との関連を維持する予定であったが、会長副会長会議において言語系学会連合からの脱退が提案されたことにより、これらの連携を再考する議論がなされた。

議論の結果、両方退会し、本部に金銭的な余裕が生じたら再度入会を考えるという意見が出され、両方退会することが決議された。

3. その他報告事項

(1) 本部報告

賛助会員、学会機関誌、理事数、あゆみコーポレーションの契約解除について報告がなされた。このうち、あゆみコーポレーションとの契約解除について、先方から人員不足を理由に契約解除の依頼があったことが説明された。2019 年度の会費徴収に向けて学会諸業務を担う後任業者を選定し、会長副会長会議にて提案することとした。

(2) 各支部からの報告

中部支部は他とフォーマットが違う(中部支部以外は繰越金が収入に入っているフォーマット)ことにより誤解を招くおそれがあるため、中部支部と同様のフォーマットにすべきではないかという意見が関東支部から出された。

(3) その他

- ・理事会内規における会長選挙に関して、選挙権を持つ者が選挙管理委員を兼ねるのはおかしいという意見が出され、細かい文言の修正案が提示された。この件は継続審議とした。
- ・2018 年度の会長副会長会議における本部会計に関する LET 本部財務状況改善ワーキンググループの提案に関して、本理事会での承認プロセスがわからないという意見が関西支部から出された。会長副会長会議はどの程度の裁量が許されているのかよくわからないという意見が出された。会長副会長会議での討議内容が議事録記載内容となるだけではなく、次の理事会での審議事項に提出できる仕組みが必要であるとの意見が出された。それに合わせた会則の変更が関西支部長 菅井氏より発議された(第 12 条の 4)。この件は、総会資料に追加、会則を変更することとなった。理事会の内規については細部を整え、

メール稟議の後、2020年度の理事会にて
諮り、会則の改正に関しては総会に諮るこ

ととなった。

以上、ご報告します。

事務局からのお知らせ

【新会員(2020年5月25日現在)】

<正会員・個人会員>

田中 十督 (西南学院中学校・高等学校)

古川 文枝 (福岡県立柏陵高等学校)

田中 沙耶

長友 隆志 (宮崎県立都城西高等学校)

工藤 俊郎 (大阪体育大学)

曾山 夏菜 (鹿児島工業高等専門学校)

<正会員・学生会員>

大野 幸久 (九州大学)

【支部紀要第20号発送のご連絡】

発送が遅延しておりました第20号の発送
作業が完了しております。

お待たせいたしまして、申し訳ございません
でした。順次お手元に届くかと思えます。6月
中旬以降も不着の場合は、事務局までご連絡
をお願いいたします。

【会費納入のお願い】

2020年度の会費振り込みのお願いが、登録

住所宛に送付されていると思います。まだお振
り込みいただいている会員の方は、お早め
にお振り込みいただきますようお願いいたしま
す(個人会員・団体会員は6,000円、学生会
員は3,000円)。未納の状態が続く場合には
支部からの発送物を停止させていただく場合
がございます。支部の円滑な運営の為にもご
協力をお願いいたします。なお住所・所属等に
変更が生じた場合には、学会本部のHPより
変更していただきますようお願い申し上げます。

【LETホームページ】

<LET本部> <http://www.j-let.org>

<LET九州・沖縄支部>
<http://www.j-let-ko.org/>

【LET九州・沖縄支部事務局】

〒862-8680

熊本市中央区大江2丁目5-1 研究棟302号

熊本学園大学 林 幸代 研究室内

(096)366-3230(代表)

編集後記

COVID-19の猛威下での大学での対応に追われたとはいえ、73号の発行が遅れましたこと大変申し訳なく思っております。この場をお借りいたしまして、平にお詫び申し上げる次第であります。(茂)